



「風邪をひくと副鼻腔炎になりやすいのはなぜ？」

夏が終わり、気温が下がってきましたね。インフルエンザもすでに流行しはじめていますし、普通の風邪症状のある方も増えてきたように思います。

耳鼻科クリニックには、風邪のあとに副鼻腔炎の症状が出てきたために受診される方が非常に多いです。珍しいことではありませんが、風邪を引いた人が全員、副鼻腔炎になるわけではありません。どうして副鼻腔炎になってしまう人がいるのでしょうか。風邪というのはウィルス性の上気道感染です。ウィルスが鼻のなかやのどの粘膜に付着し、炎症を起こすと、鼻水、のどの痛み、咳などの症状が起きます。その際に鼻の奥の粘膜が腫れると、鼻腔と副鼻腔をつなぐ通路が狭くなり、副鼻腔内に粘液がたまりやすくなります。すると、もともと鼻腔や副鼻腔に付着していた細菌が増えやすくなり、副鼻腔炎を引き起こします。

副鼻腔炎になりやすい人の特徴として、アレルギー性鼻炎がある人、鼻中隔彎曲症（鼻のなかの仕切りの壁の歪みが大きい）の人、喫煙者、小さいお子さんが家庭にいる人

（風邪のウィルスが持ち込まれやすいため）などがあげられます。副鼻腔炎の予防としては、風邪をなるべく引かないのが一番ですが、日頃から鼻うがいを習慣にしたり、アレルギー性鼻炎の治療を続けることなどがあげられます。症状があれば、医師にご相談ください。



オギジビ豆知識



年末が近づいてきました。年が明けると、花粉症シーズンがやってきます。毎年つらい思いをしている方は、今の時期から対策を始めませんか？生活習慣としておすすめなのは、「鼻うがい」です。鼻腔に付着した花粉やよごれを洗い流すことで、症状が出にくくなります。花粉症シーズンより前から習慣づけておくことで、次のシーズンの花粉症を悪化させずに済む可能性が高いです。鼻炎が悪化してから鼻うがいを始めると、鼻閉のせいでうまくできなかったり、耳が痛くなったりしますので、今のうちから始めましょう。

オギジビの輪

- お友達・お知り合いに、是非おぎはら耳鼻咽喉科をご紹介します。
- 神奈川県では珍しい、言語聴覚士のいる耳鼻咽喉科です。難聴や補聴器については大学病院レベルの診察・検査体制を整えています。
- ちょっとした不安の解消から専門的な診察まで、幅広く行っています。